

## はじめに

南信州（飯田・下伊那地域）は、豊かでありながら時には厳しい自然環境のもと、古より各地の多様な生活文化を尊重しながらも、お互いに繋がりをもって一体として発展してきました。

その風土や人々の日常生活に根ざす形で、神楽や盆踊り、人形芝居や農村歌舞伎、獅子舞などの多様な民俗芸能が独自の文化として各地で生まれ、先人から脈々と受け継がれてきました。貴重な民俗芸能が今も多く点在するが故に、南信州は「民俗芸能の宝庫」と呼ばれています。

多様な風土と生活文化の上に息づき継承されてきたこれらの民俗芸能は、わが国の農山村文化の原点ともいえ、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の開通をも見据える中で、南信州の“誇り”として将来にわたって、守り、活かすべき貴重な資産です。

また、これら民俗芸能は単なる芸能である以上に、それを継承すること自体がコミュニティの健全な存続を実現してきたという側面もあり、持続可能な地域となるための重要な役割も担っています。

ところが現状は、社会意識や生活環境の変化、少子高齢・人口減少社会の到来により、中山間地におけるコミュニティの弱体化が危惧されており、これら地域に根ざす民俗芸能も後継者の減少や不在から、存続の危機にさらされています。各自治体が、人口減少を緩やかにするための様々な取組を進めていますが、その減少を食い止めるのは容易ではありません。

このような現状の下、後継者の育成と未来への継承のために地域を挙げた取組を強力に推進するため、南信州の民俗芸能の継承団体、県、市町村、広域連合が手を取り合い、去る平成 27 年 7 月 1 日、「南信州民俗芸能継承推進協議会」を設立しました。以降、推進組織である民俗芸能継承推進委員会で地域全体が推進すべき取組の方向性を検討し、このたび「南信州における民俗芸能継承のための取組方針」として取りまとめました。

この方針に基づき各種取組が協議会のもとより各地区等において積極的に実践され、民俗芸能とそこに育まれる地域の“誇りと活力”が受け継がれて初めて、持続可能な地域が実現するものと確信するものです。

南信州民俗芸能継承推進協議会 会長 片 桐 登

## 第1章 南信州の民俗芸能の現状

### 1-1 南信州の民俗芸能に対する評価

南信州には、古より伝承される神楽や盆踊り、人形芝居や農村歌舞伎、獅子舞などの民俗芸能や行事が各地に数多く点在し、「民俗芸能の宝庫」と呼ばれています。

これらの芸能の多くは、置かれている自然環境・風土・生活に根ざしながら人々の生活や信仰の中で固有の文化として生まれ、古より地域や人々の誇りとして脈々と受け継がれてきたものです。

図表 1-1-1 南信州の主な民俗芸能

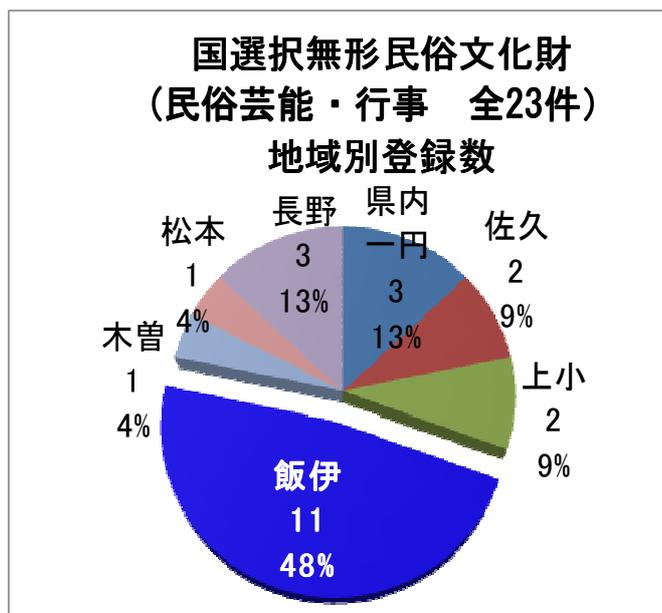
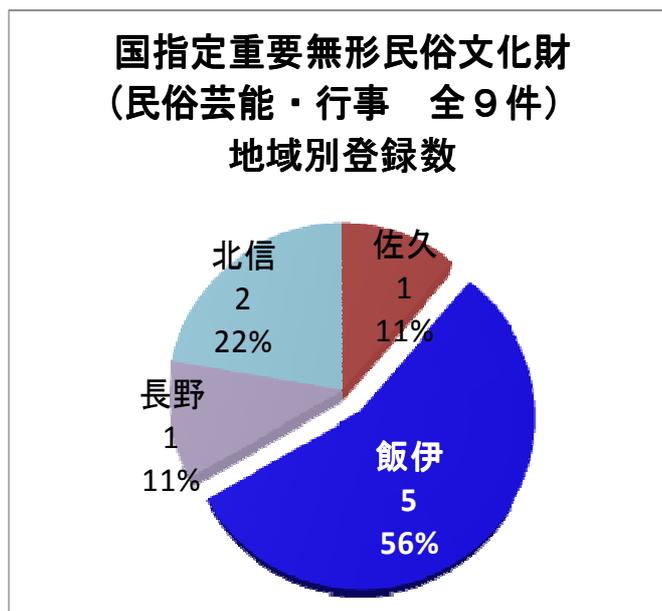
地域	民俗芸能	実施時期	国指定 重要無形 民俗文化財	国選択 無形民俗 文化財	県指定 無形民俗 文化財	県選択 無形民俗 文化財
飯田市	黒田人形・今田人形	4月・10月 ほか		○		○
	遠山の霜月祭 (上村・南信濃)	12月	○	○		
高森町	大島山獅子舞	4月			○	○
阿南町	新野の雪祭り	1月	○	○		
	日吉の御鍬祭り	4月			○	
	深見の祇園祭り	7月				○
	新野の盆踊り	8月	○	○		
	和合の念仏踊り	8月	○	○		
	早稲田人形	8月		○		○
阿智村	清内路の手作り花火	10月			○	
天龍村	天龍村の霜月神楽 (坂部・向方・大河内)	1月	○	○ (坂部 向方)		
	大河内の鹿追い行事	4月		○		
泰阜村	南山の樽木踊り	8月		○	○	
大鹿村	大鹿歌舞伎	5月・10月		○	○	
各地	伊那谷のコト八日行事	2月		○		
	下伊那のかけ踊り	8月		○		

【長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課資料】

南信州の民俗芸能の評価については、これらの多くが、国や県において無形民俗文化財として指定等がなされている事実からも確認することができます。

特に国が保存、継承の必要があるものとして指定した重要無形民俗文化財は、長野県内に9件ありますが、その過半数の5件が当地域の芸能です。また、国が記録の作成・保存が必要としている選択無形民俗文化財をみても、他地域に比べ登録数が突出して多くなっています。

図表 1-1-2 県内の国指定・選択無形民俗文化財の状況



【長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課資料】

一方で、国や県の指定や選択されているもののみが貴重な民俗芸能であるということではありません。南信州にはこのほかにも四季を通じて多種多様な民俗芸能が伝承されており、そのいずれもが地域の誇りとして受け継がれてきた南信州の“貴重な資産”といえます。

さらにそこには、様々な年中行事やそれを営む集落や寺社などの多様な民俗文化が息づいています。それを包含してきた豊かな自然環境も含め、ここ南信州は日本人が培ってきた信仰や観念から衣食住などの生活文化に至るまで“日本の農山村文化の原風景”が凝縮された貴重な地域であり「ニッポンの日本」といえます。

### 「ニッポンの日本」とは

南信州は、“日本の原風景・日本人の心のふるさと”として多様な素材（豊かな自然・風景、人々の生活、歴史文化など）を持ち、“日本の中にある本当の日本”が残されている地域です。この概念を、グローバルな情報発信の観点から「ニッポン」という表記で現しました。

当地域の魅力を伝え、輝かしい未来を創造するためのキャッチコピーとして、平成20年より南信州広域連合が使用しています。



## 1-2 南信州の民俗芸能の持つポテンシャル

現在、南信州の将来に大きな影響を与える大プロジェクトである三遠南信自動車道及びリニア中央新幹線の整備が進んでいます。

これら高速交通網の開設は、これまで「陸の孤島」とも称されてきた当地域の交通環境に、中央自動車道の開通以来の革命とも言える変化をもたらします。この機会を地域の将来に最大限有効活用するためには、この地にしかない“魅力”を広く内外に認知してもらい、交流の拡大に結びつけていくことが必要です。

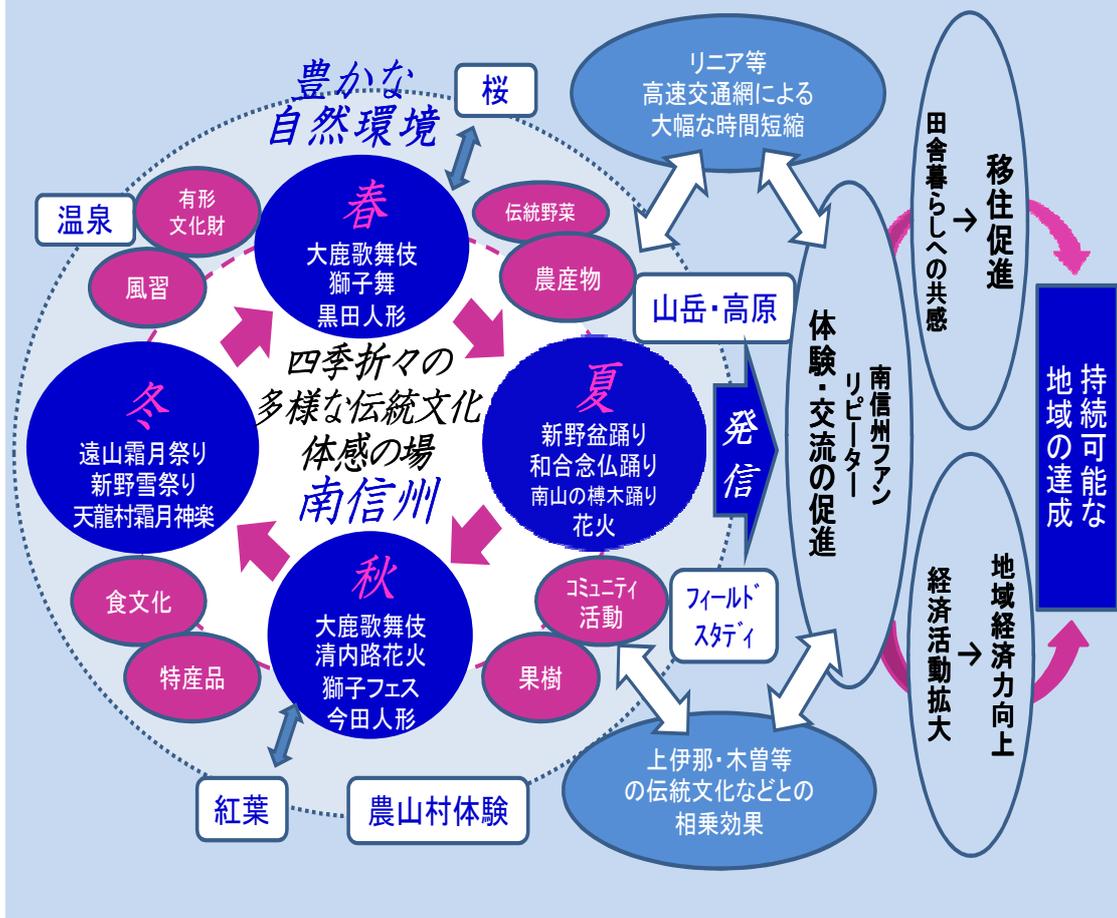
「わが地域の魅力は何か。」との問いに対しては、様々な主体により意見は分かれ、答えは一つではないでしょう。平成26年3月に南信州広域連合が策定した第4次広域計画（基本構想・基本計画）においては、地域住民が考える南信州の魅力を「守るべきもの」として市町村別に整理しています。自然環境、景観、産業、特産品、文化、コミュニティなど多様な項目が挙げられている中

で、注目すべきは多くの市町村において地域の民俗芸能が多数掲げられていることです。つまり、地域住民の多くが共通項として民俗芸能が南信州の“魅力”であると捉えているということです。

当該構想ではこれを受け、今後の地域づくりの5つの方向性の一つに「芸術・文化、教育を活かした地域づくり」を掲げています。南信州が内包する“日本の農山村文化の原風景～日本のニッポン～”は国内のみならず、海外をも引き付け得る“魅力”であり、リニア中央新幹線などの高速交通網の開通をも見据えて当地域が目指すべき未来（以下「リニア時代」という。）に向け大いなるポテンシャルを秘めているものと確信します。

図表 1-2-1

### 民俗芸能の活用による リニア時代の地域づくりのイメージ



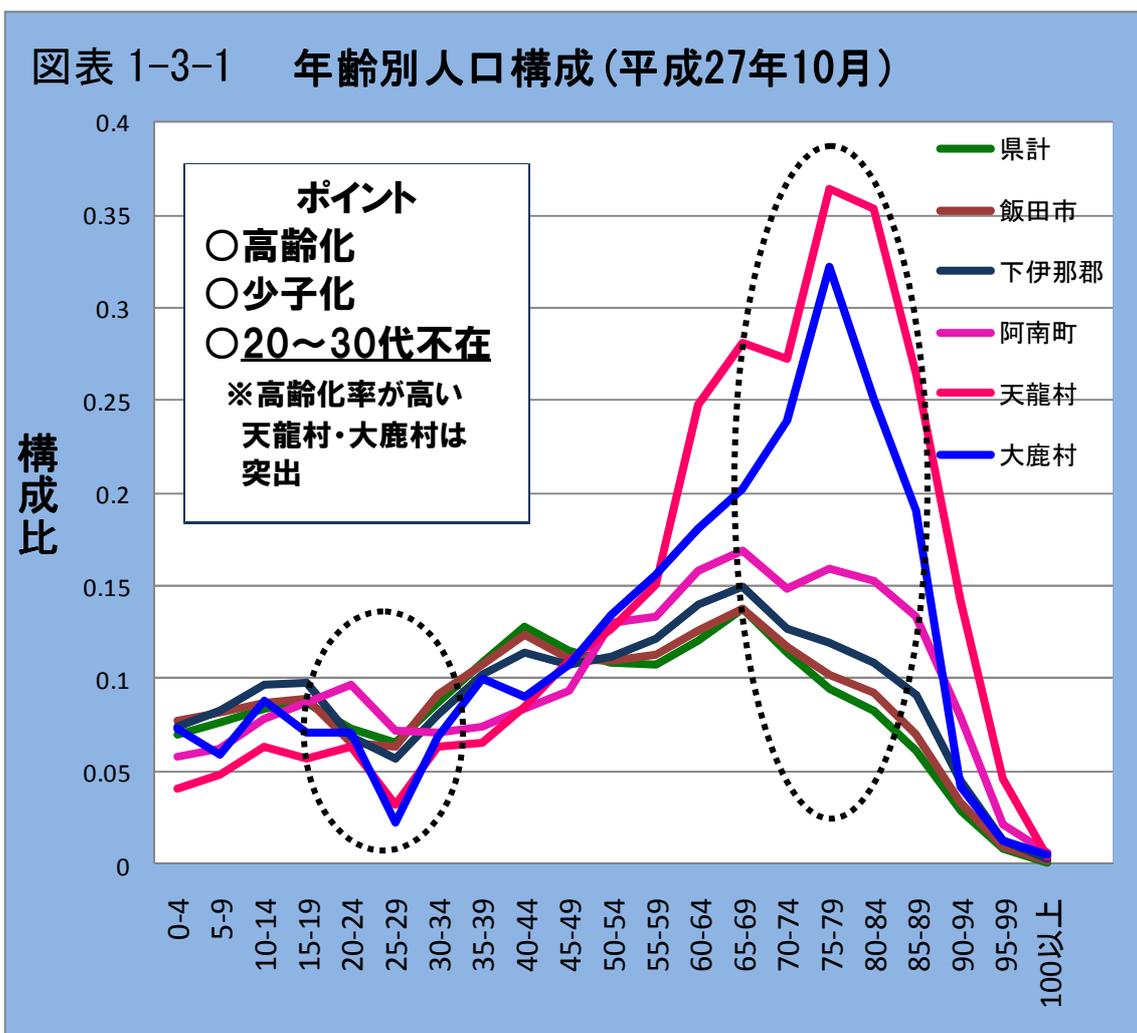
### 1-3 継承の必要性と危機

各地に伝承されている多種多様な民俗芸能をリニア時代に活かすためには、そのそれぞれを確実に未来に継承していくことが求められます。

ここで大きな課題となるのが、少子高齢・人口減少社会の到来です。

当地域の現状の年齢別人口構成を見ると、飯田市、下伊那郡ともに典型的な少子・高齢社会となっており、特徴的な点は、20代～30代の若者世代が極端に少ないことです。

これは、高等学校卒業後、進学や就職などにより、多くが地元を離れてしまうこと、加えて大学や専門学校等を卒業しても地元に戻る者が少ないことが原因として挙げられます。当地域の中で高齢化率が高い天龍村や大鹿村の状況は、より一層深刻となっています。



【長野県情報政策課：毎月人口異動調査】

当地域の人口推計を見ると、飯田市・下伊那郡ともに2040年の人口は、2010年の4分の3程度まで減少することが見込まれています。特に高齢化率の高い天龍村、大鹿村では、半分以下にまで激減するとされています。

現在、各自治体において人口減少対策の様々な取組を行っていますが、その速度を鈍化させることはできても、その流れを止めることは非常に困難な状況と言わざるを得ません。



【国立社会保障・人口問題研究所：平成25年3月推計】

このような状況の下、地域の担い手となる世代の不在や減少により、特に中山間地の小規模集落においてはコミュニティの存続も危惧されています。加えて生活環境の変化や若者の価値観・嗜好の多様化などもあり、地域コミュニティが主体となって伝承する民俗芸能が継承の危機にあると言えます。

実際にここ数年間のうちに、担い手の不足により民俗芸能を伴う祭りの実施が困難になり、止むを得ず休止や廃止に追い込まれた地区が少なからず生じています。このまま何らかの対応を講じなければ、南信州の“貴重な資産”を失いかねない由々しき状況を迎えています。

#### 1-4 継承の危機を回避するために

これまで多くの地区等で継承者不足という共通の課題を抱きながら、そのための具体的対策は多くが手付かずで、取り組んでいる場合でも、各地区単独のいわゆる“点の取組”であったと言えます。

また、行政もこれまで、これらの芸能が地域コミュニティに根ざす貴重な文化であると認識する一方で、その多くが神社・仏閣などに関する諸行事で住民が主体的に行う宗教的性格のものであることを理由に、開催支援はもとより、担い手確保や育成についても消極的であったと言わざるを得ません。

芸能継承や地域コミュニティ存続の危機が現実となる中、行政は、住民の信仰の世界だけでは語れない地域に根ざす生活文化の保全の必要性を再評価した上で、今こそ積極的支援に転換し、継承のためにいわゆる“面の取組”に本腰を入れなければなりません。

このような視点から、芸能関係者と行政機関が広く協働することにより、地域一丸となって“貴重な資産”である民俗芸能を継承していくため、平成27年7月1日に南信州民俗芸能継承推進協議会（以下「協議会」という。）を結成し、各種の取組をスタートさせました。協議会では、平成27年度の1年目の取組として協議会内に設置した民俗芸能継承推進委員会（以下「委員会」という。）を推進組織とし、先進的な取組事例の研究やこれらを参考とした事業の試行を通じて今後の協議会事業の展開の方向性を探り、今回ここに「南信州における民俗芸能継承のための取組方針（以下「取組方針」という。）」として取りまとめました。

図表 1-4-1

## 南信州民俗芸能継承推進協議会の組織概要

### ①南信州

#### 民俗芸能継承推進協議会 (事務局:南信州広域連合)

※飯伊地域全体の事業推進を総括  
(事業計画、予算、決算等)

民俗芸能実施団体  
市民団体  
南信州広域連合  
(総務・文教・消防部会、事務局)  
飯伊市町村教委連絡協議会  
飯田市美術博物館  
県教育委員会  
下伊那地方事務所

アドバイザー  
(外部学識者5名)

### ②民俗芸能継承推進委員会

#### (事務局:南信州広域連合)

※南信州地域が取り組む方向性の議論・提示、  
意識醸成事業(先進事例研究・交流会)、県外体  
感・講習会の実施、各地区推進組織の取組支援

民俗芸能実施団体、関係市町村、  
飯田市美術博物館、県教育委員会、  
下伊那地方事務所、南信州広域連合事務局

調整  
報告

支援  
調整

### ③地区推進組織(事務局:市町村)

※実情に応じた担い手確保策の検討・試行  
(子ども体験、サポート隊等)⇒継続的实践

実施団体、住民組織、市町村 ほか